



除災厄除・身守り 特別塩

『輝きのしお』は、海水を塩田に引込み、太陽熱と風によつて水分を蒸発させ塩を結晶させる方法で作りの出された天日塩です。日光の力と月光の力を一年以上も溜め込んだ塩なので、他にはない輝きがあり、浄化の力も非常に高いお塩です。今回は、この『輝きのしお』に『一ノ神社』で「除災厄除」「身守り」の祈禱をした特別なものをお渡ししたいと思います。

一ノ神社は高知県の小京都中村にあり、陰陽師の末裔である私の故郷です。天皇の側近として仕えていた一条家が四万十川下流域で築いた土地で、この当時一条家に使っていた安倍氏が中村の裏鬼門(西南)を守るために山深い場所に安倍氏(現在では阿部氏)を配置したとのこと。『一ノ神社』は我が一族が神主として代々受け継いできた由緒ある神社です。

使い方は、通常使っている「輝きのしお」の二割ほどをこの特別塩に置き換えるとよいでしょう。優先して使うべき用途は玄関の枡塩、塩風呂、塩うがいなどです。ひとつまみを白い紙に包んで持ち歩くのもおすすめです(その場合は2週間ほどで交換を)。

通常の『輝きのしお』以上に浄化作用の高いお塩なので、一度開封したらなるべく早めに使い切るようにしてください。



鬼退散魔除護靈符

今現在、新型コロナウイルスによるパンデミックが起きています。

かつて平安時代でも細菌やウイルスなどの流行病は発生しており、それらは全て魑魅魍魎(ちみもうりょう)が人を襲っていると考えられていました。

陰陽師の安倍晴明もこの魑魅魍魎たちを退治するために式神や霊符などを使っていました。

今でも、その名残りとして各神社でも御守りとして小さな巾着袋の中に霊符や木札などを入れて、魑魅魍魎(細菌やウイルス含む)を退治しています。

この霊符は、その頃から伝わる『流行病専用』の悪霊退散の護霊符です。霊符の中でも特殊な霊符です。

普段は書くこともなく、また販売することも考えていませんが、今回は縁ある人に限定でお渡ししたいと思います。

置き場所は、包み紙から出して神棚の横に置いておくか、神棚がない場合は、目線より高い場所に置いてください。持ち歩く場合は、白い紙に包んで折れないようにしてください。

強い霊符なので粗相しないように大切に扱ってくださいませ。



占導師 幸輝

せんとろうし

こうき

高知県出身。四国霊場の陰陽師の末裔。幼少期より四万十川のほとりで育つ。祈祷師であり師でもある祖母から学んだ知識をもとに『占導』(占術を使って導く手法)を確立。この道三十年年以上の鑑定師。鑑定実績は五万件以上。現在では『未来を当てる占い師ではなく、理想の未来を創る占導師』として、セミナーや講演会を行いながら全国行脚している。(社)日本占導師協会 代表理事。

<https://sendoushi.jp>



あなたの大切な方にも

『除災厄除・身守り 特別塩(鬼退散魔除護霊符)』を、あなたの大切な方にもぜひどうぞ。(ご注文者と配送先は別に指定することができます。)

こちらから↓



こちらから↓

